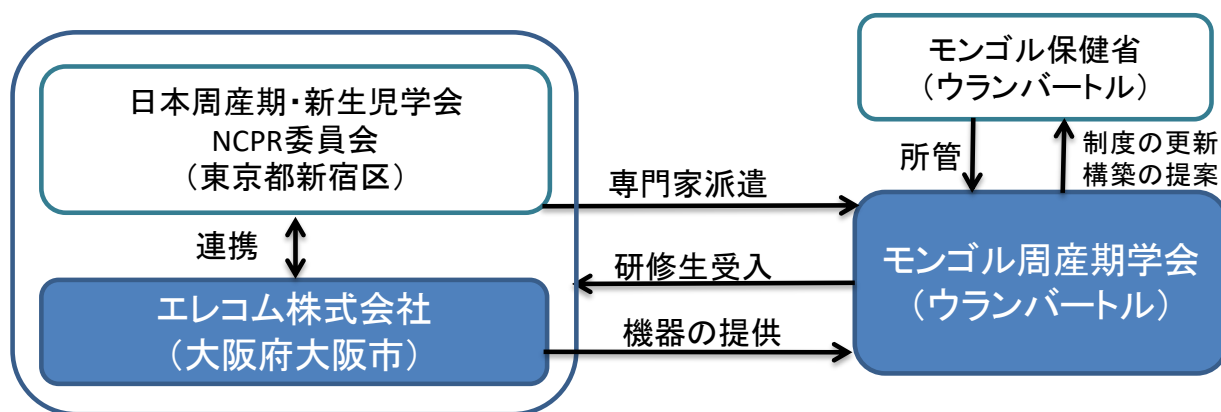


モンゴルにおけるシミュレーション補助デバイスを活用した新生児蘇生法研修導入事業

- ①モンゴル国（モ国）は首都への一極集中が進み都市と地方の医療レベル格差が課題となっている。日本発の新生児蘇生法（NCPR）を原型としたモンゴル版NCPRガイドラインが導入されたものの、新指導者の育成および技術向上、全国へ研修を展開・普及するシステムの整備が必要とされている。
- ②モ国の新生児蘇生法研修の質を向上、標準化させ、全国へ研修を普及することによって、都市と地方の技術格差を縮小させ、新生児死亡率の低減に寄与する。
- ③エレコム社が開発した安価で効果の高い新生児蘇生シミュレーション教育機器を活用し、日本周産期・新生児学会NCPR委員会と連携し、モ国周産期学会と、インストラクターの養成・能力強化研修及び新生児蘇生法に係るガイドラインや教材の策定能力強化、研修事業管理体制整備のための本邦研修及び専門家派遣を行う。
- ④2026年度末までに全国21県にインストラクターが育成され、周産期医療従事者の75%以上が新生児蘇生法研修を受講する。新生児蘇生法研修管理委員会が設置され、インストラクターや研修が管理される。新生児蘇生法ガイドラインや教材が更新/開発され、関係者に配布される。当該機器が研修プログラムに導入され全国に展開される。



＜研修スケジュール予定＞

8月 研修生受入（3名）

ガイドライン・研修システム管理研修

9月 専門家派遣（3名）

インストラクターの現地指導、地方拠点病院の
インストラクター育成研修

12月 研修生受入（13名）

インストラクター能力強化研修、シミュレーション
機器技術指導、NCPRテキストブック作成研修